

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価

学校法人つくし野学園 聖母幼稚園

## 1、園の教育目標

聖母幼稚園は、神様のあたたかい愛に包まれて、一人ひとりが大切にされ、命を尊び「生きる」喜びにあふれた家庭的な幼稚園です。

子どもたちは、落ち着いた雰囲気の中で自分らしくのびのびと活動し、自然や他者とのかかわりを通して、豊かな心を養い、心身ともに強くたくましく成長していきます。安心して生活できる明るい社会のために、家庭・地域と連携し、お互いに支え見守りながら、未来に向かって共に歩んでいきます。

## 2、本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・ 職員、子ども、保護者との信頼関係を深めながら、子どもたちが愛されていると実感できる幼稚園になる。
- ・ モンテッソーリ教育を通して自主的で集中できる活動に取り組み安心して生活する。
- ・ ネイティブ講師による英語指導によって、様々な国籍の方との交流を通して、楽しみながら英語に親しむことができる。

## 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取組状況
幼児教育基本方針と組織	B	園内外研修の機会に、教育理念や基本方針について職員勉強会を開催する。 今後は、全職員での学びや分かち合いの機会を設け、様々な観点から課題を打ち出し、具体的に活動できるようにする。 教諭としての適切な言葉や態度・行動ができるよう新入職員研修を職員が担当し、意識をもって教育に力をいれる。
保育内容指導計画	B	幼稚園教育要領をふまえて、教育課程の見直しの必要がある。 教諭は日々の子どもの実態を把握し、よく観察し記録することによって、長期・短期の指導計画の反省、振り返り、日案の作成に反映させるようになる。
保育内容実務の確認	B	モンテッソーリ教育の充実を図り、自主的に集中できる環境を整え、幼児の興味・関心・成長に合わせた主体的な活動ができるよう配慮する。 正課英語指導がネイティブ講師による指導になったことで、英会話だけでなく様々な国の講師と関わり、その文化や特色を学ぶことができている。
研修と研究	C	園内研修が計画的に実施できていないことをふまえ、各担当分野の外部研修を積極的に行われた。各種研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、報告会を定期的実施する。

子育て支援	A	未就園児クラス・園庭開放の利用により、子育ての情報提供、保護者の子育て不安、育児への相談に対応し、保護者との連携を持てるようになる。 未就園児クラスの充実により、途中入園者の不安が除かれ、違和感なく保育活動になれることができる。
保護者対応	C	コロナ禍にあって、園行事の規模の縮小、制限が多くなっている。そのため、園での子どもの様子を発信してほしいとの要望が多かった。保護者の要望に応えられるよう日々の保育内容のブログ発信、クラス・学年便りを通してクラスの様子を伝えることに努める。

#### 4、 学校評価の総合的な評価結果

結果	理由
B	保護者の評価と職員の自己評価を照らし合わせていくなかで、意識の相違が感じられた。保護者の様々な考えや要望に真摯に向き合い、丁寧に受け入れて対応でき、家庭との連携を大切にしていけるようにする。 園内研修の充実と計画的な実施の検討を行い、全職員が共通意識を持つことが重要である。保護者目線に立ち、保育の様子を発信できるような取り組みと工夫が求められている。

#### 5、 今後取り組む課題

保育の充実	園内研修の計画的な実施と内容の新たな検討を行い、職員の意識と質の向上を目指す。音楽・英語・体操指導の充実を図り、子どもの発達や個性をふまえ、より良いものを提供する。
保護者支援	幼稚園生活の発信に向けて、園関係者が安心してブログを見られるよう専用アプリを使用する。幼稚園に来園する機会を増やし、コロナ禍でも安心して保育参観ができるようにする。学期ごとの個人面談、懇談会の機会を持ち、クラス学年を超えた関わりができる環境づくりに力を入れる。
子育て支援	未就園児クラスに経験豊富な人材を配置し、子どもたちの興味関心が持てる内容を盛り込み活動を進めていく。「キッズ教室」「ひよこ組」を安心して利用いただき家庭・地域と連携を強め、子育て相談や支援のあり方を模索していく。

#### 6、 学校関係者評価委員会の評価

<p>評価は適切に行われ、取り組み課題が適切に設定されている。</p> <p>コロナ禍により活動が制約される中で、目標・計画に対して積極的に取り組まれている。重点課題としての英語教育は、グローバル化が進む現代社会において、幼児期から親しむことは大変に効果的なことと考える。これまでの経験とともに、概成概念にとらわれない新たな発想も取り入れた園の教育・運営を期待している。</p>
---